

コラム・会員の自慢

東興建設株式会社 (Toko Corporation)

http://www.toko-kensetsu.co.jp

技術研究開発部 吉田 寛
h-yoshida@toko-kensetsu.co.jp



東興建設のロゴマークは、人と人とのつながり、人や動物の住む地球を大切にする企業姿勢を表しています。実際はカラーなのでホームページをみてください。

1. 世界に先駆けて厚層基材吹付工を開発・実用化

東興建設は、アメリカから輸入した吹付機を使用して、建築物の外壁、煙突内の耐火材、水路補修などの吹付工事を行なう会社として1956年に設立されました。その後、吹付機を用いて芝の種子を斜面に吹き付け、広範囲の斜面を急速に緑化する種子吹付工法で斜面緑化工事分野に進出しました。そして、1974年には斜面緑化の革新的技術ともいえる厚層基材吹付工(ON吹付緑化工法)を開発し、「緑化の東興」と言われる基礎を築きました。いまでも緑化を含む斜面保護工事の受注額は全体の70%近くを占めています。

2. いち早く自生種を用いた自然回復緑化を実践

緑化することは困難と考えられている場所に植物群落を形成することに始まった開拓者精神はその後引き継がれ、東興建設は、生物多様性条約が締結される以前から、常に「環境」を重視した土木工事のあり方を念頭に置いた技術研究開発を行ってきました。特に最近の斜面緑化では、生物多様性や外来生物法に配慮して、緑化用外来牧草類ではなく自生種の利用が求められるようになりました。私たちはこれを先取りして、自生種種子を吹き付けて木本植物群落を形成する斜面樹林化技術を1990年初めに確立しました。しかし、事業化にあたり一般の種苗業者が地域性系統種子を取り扱っていないことに加え、その貯蔵技術すら確立されていない状態であったことから、東興建設は木本植物種子の貯蔵技術を開発する研究所(日本樹木種子研究所)を1996年に設立し、1998年には種子貯蔵施設(RSセンター)を開設し、国内産自生種を用いた斜面樹林化事業に反映させています。当時は



写真-1 タネまき(斜面樹林化工法)で形成した自生種の木本群落(約6年後)

「そこまでの?」という声も聞こえましたが2006年に施行された外来生物法により、斜面緑化に長年使用されてきた植物にまでメスが入ろうとしている状況を見ても、東興建設の「環境」を重視した本物志向は間違っていないということが裏付けられると思います。

3. 業界初のM&Aを契機に企業価値の向上を目指す

しかしながら、どうも昔から時代を先取り?しすぎてしまう傾向が強いようで、例えば表土を利用する緑化や無播種施工なども1980年代から取り組んで営業してきましたが、当時は「雑草が生えるような工法はダメ!」ということで世間に受け入れてもらえませんでした。こうした商売ベタ?な一面もある会社ですが、2006年7月にM&Aによって高松建設株式会社と青木あすなる建設株式会社が率いるGWA(Green Wood Alliance)グループの一員となり、さらに同年11月には同業者の大和工業株式会社の斜面部門の営業譲渡を受け、技術開発と利益追求が共存できる新しい企業体質への変化革新にも挑戦しています。

表-1 会社概要と連絡先

商号	東興建設株式会社
所在地	東京都港区芝2-14-5(本社)
設立	1956年3月19日
代表者	代表取締役社長 伊藤 清
資本金	7億8,711万円
事業内容	自然回復緑化、斜面緑化、斜面保護、地盤改良、保温保冷・耐火、リフォーム、土壌汚染対策など
連絡先	お気軽に筆者、または会社ホームページまで TEL. 03-3456-8761(代表)



写真-2 木本種子の品質を追求する日本樹木種子研究所